

農村計画学会 2018 年度秋期大会学術研究発表会プログラム

1 題あたり 20 分（発表 14 分、質疑 5 分、発表者入替 1 分）
総合討論 20 分（各セッション）

第 1 日 12 月 1 日（土）

10:20	第 1 会場（長崎大学文教キャンパス 総合教育研究棟2階 207講義室）	第 2 会場（長崎大学文教キャンパス 総合教育研究棟2階 208講義室）
	開会挨拶（会長：青柳みどり、場所：長崎大学文教キャンパス 総合教育研究棟2階 207講義室）	
10:30	<p>〈A：農村ビジネスの新たな可能性〉 コーディネーター：能美 誠（鳥取大学）</p> <ol style="list-style-type: none"> 西伊豆戸田地区における在来野生柑橘タチバナの地域資源化に向けた取り組みと生育実態 大澤啓志（日本大学） 地域資源の視点からみた水力発電の利潤配分 -近現代の宮崎県小丸川における県営発電を中心に- 堀川洋子（筑波大学） 他2名 産地と外食企業の連携による飲食店事業の展開と課題 眞鍋邦大（神戸大学） 他1名 <p>◎総合討論</p>	<p>〈B：農村進化に資する選択と要因〉 コーディネーター：菊池義浩（兵庫県立大学）</p> <ol style="list-style-type: none"> 農の主体の二極化現象に見るオルタナティブな農村進化の可能性 -ベトナム紅河デルタ農村における「多様就業」と食と農に関する事例研究- 井上果子（宮崎大学） 石川県を事例とした高校生世代が有する境遇へのネガティブな認識 の規定要因 山下良平（石川県立大学） 農村地域における住民の地域愛着に影響を及ぼす要因分析 -山口県長門市俵山地区を事例として- 新里 早映（東京農工大学） 他2名 <p>◎総合討論</p>
11:50	昼食休憩	
13:30	<p>秋期シンポジウム（場所：長崎大学文教キャンパス 総合教育研究棟3階 大講義室）</p> <p>テーマ：景観を活かした地域づくりを考える 基調講演：梅元建治氏（（一社）ナガサキベイデザインセンター 代表理事） 事例紹介：4題報告（長崎県土木部都市政策課，長崎市企画財政部世界遺産推進室，平戸市文化観光部文化交流課，長崎市深堀まちづくり推進協議会）</p>	
17:30 18:00		
20:00	交流会 <会場：長崎大学生生活協同組合 文教食堂2階>	

第2日 12月2日(日)

	第1会場(長崎大学文教キャンパス 総合教育研究棟2階 207講義室)	第2会場(長崎大学文教キャンパス 総合教育研究棟2階 208講義室)
9:30	<p><C: 持続的な農業経営と農家意識></p> <p>コーディネーター: 星野 敏 (京都大学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イノシシが新たに侵入した島嶼における被害拡大と農家意識 -愛媛県松山市興居島・釣島を対象として- 武山絵美 (愛媛大学) 2. 田んぼダムの普及に向けた農家の参画可否と公的支援に関する研究 田村孝浩 (宇都宮大学) 他4名 3. 大規模農業経営体における農作業安全対策の実態と特徴 白髭祐未 (宇都宮大学) 他3名 4. 中長期間避難における営農再開プロセスとその支援方策 -福島県飯舘村の事例より- 齋藤朱未 (同志社女子大学) 他2名 <p>◎総合討論</p>	<p><D: 次世代の農村社会システム></p> <p>コーディネーター: 遠藤和子 (農研機構)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 農業水利環境ストックの創造的管理に向けた維持管理システムの経年的変化に関する研究 -滋賀県犬上郡甲良町北落地区を事例として- 新田将之 (東京農工大学) 他3名 2. 任期終了後に他出した地域おこし協力隊員の任期中の実態分析 -任期中の活動とパーソナルネットワーク間の関係性および他出要因に着目して- 栗原良樹 (山形大学) 他1名 3. 地域運営組織の設立に向けた初動期の取り組みの評価 -岩手県雫石町を事例として- 藤原瑞枝 (岩手県雫石町) 他1名 4. 農家業の業務外部化とビジネスエコシステムの形成 -中国北京市怀柔区官地村を事例として- 高田晋史 (島根大学) 他1名 <p>◎総合討論</p>
11:10 11:30	昼食休憩	
12:50	理事会・評議員会	
13:00	ミニシンポジウム(場所:長崎大学文教キャンパス 総合教育研究棟2階 207講義室) 主 催: 大震災復興特別委員会 テーマ: 「災害に強い地域づくり-西日本豪雨、熊本地震の現場から-」	
14:30	閉会挨拶(会長:青柳みどり、場所:長崎大学文教キャンパス 総合教育研究棟2階 207講義室)	